

顧客 1	長崎大学病院
顧客 2	—
所在地	坂本1-7-1
郵便番号 市区町村	852-8102 長崎市
レポートステータス	完了
部署	—
検査室	—
パーツ番号	11364751
シリアル番号	N.A.
作業番号	728201481431
装置 ID 番号	1000271633-NM008
装置・ユニット名	Symbia Pro.specta Q3
技術 ID 番号	732-227268

システムの状態

システムは正常です。

システム操作上の影響はありませんが、システムに軽微な問題があり予防措置を行う必要があります。

システムが正常でないため、システムを使用する前に適正な措置を行う必要があります。

- Siemens Healthineers
署名



日付	27.09.2025
名前	大坪

- 顧客担当者
署名



日付	27.09.2025
名前	N.A.

備考

- 備考



サービスプロバイダ

名前	シーメンスヘルスケア株式会社
所在地	東京都品川区大崎1丁目11番1号 ゲートシティ大崎ウエストタワー
郵便番号 市区町村	〒141-8644 東京都

略語

S	安全性
Q	品質
P	ソフトウェア
T	時刻/時間
(-)	スタンダード

規格

本書はIEC 62353:2014-09およびIEC 61223-3-5:2019/COR1:2022 ED2に準拠しています。

3 18か月ごとのシステムPM：パート1（カバーを取り外した状態）

3.1 システム設置/運用開始時のキャリブレーション結果と設定のアーカイブ

- システム設置/運用開始時のキャリブレーション結果と設定をバックアップ	●	○	○
- 設置/運用開始時のバックアップをアーカイブ	●	○	○
- サービスライセンスファイルをお客様側に残していない	●	○	○

3.3 フロントPHS

- 上下動ノイズを確認	●	○	○
S バックアップナットを点検	●	○	○
S キーが存在する	●	○	○
- フロントPHSへの注油	●	○	○

3.4 RPHSの点検

S バックアップナットを点検	●	○	○
- ローラーを点検	●	○	○
- 上下アクメスクリューへの注油	●	○	○

3.5 SPECTガントリー

- SLD1とSLD2のベルト張力を点検	●	○	○
- 両トラニオンチェーンの緩みを点検	●	○	○
- 両トラニオンチェーンへの注油	●	○	○
- ケーブルを点検し、摩耗がないことを確認	●	○	○
- LLD1とLLD2のアクメスクリューを目視点検	●	○	○
- LLD1とLLD2のアクメスクリューへの注油	●	○	○
S SLD1とSLD2のアクメスクリューを点検	●	○	○
- SLD1とSLD2のアクメスクリューへの注油	●	○	○
S ガントリーチルトスイッチを点検	●	○	○

3.6 耐荷重ボルトの点検（ガントリーを分離していない状態）

S カウダルチルト検出器とクラッチの接続部（検出器2）を点検	○	○	●
S カウダルチルト検出器とピボットの接続部（検出器2）を点検	○	○	●
S 固定検出器（ヨーク側）とタブの接続部（検出器1）を点検	●	○	○
S 固定/カウダルチルトとヨークアームの接続部を点検	●	○	○
S ヨークとトラニオンの接続部を点検	●	○	○

SPECT-CT		シリアル番号	N.A.	日付	2025-09-27	実施/ 適合	要対応	該当無/ 適用外
5	トラニオンとSLDの接続部を点検					●	○	○
5	SLDとLLDの接続部を点検					●	○	○
3.7 電気的安全性の点検								
3.7.1 保護接地抵抗測定結果のレポート作成								
5	SPECTガントリーのクリーンボックスへのIECの主接地端子の保護接地抵抗 保護接地抵抗: ≤100 mΩ 値		N.A.			○	○	●
5	SPECTガントリーのフレームへのIECの主接地端子の保護接地抵抗 保護接地抵抗: ≤300 mΩ 値		N.A.			○	○	●
5	CT PDBへのIECの主接地端子の保護接地抵抗 保護接地抵抗: ≤100 mΩ 値		N.A.			○	○	●
5	CTガントリーフレームへのIECの主接地端子の保護接地抵抗 保護接地抵抗: ≤300 mΩ 値		N.A.			○	○	●
5	フロントPHS（上部接地点）へのIECの主接地端子の保護接地抵抗 保護接地抵抗: ≤300 mΩ 値		N.A.			○	○	●
5	フロントPHS（下部接地点）へのIECの主接地端子の保護接地抵抗 保護接地抵抗: ≤300 mΩ 値		N.A.			○	○	●
5	RPHS接地点へのIECの主接地端子の保護接地抵抗 保護接地抵抗: ≤300 mΩ 値		N.A.			○	○	●
5	ガントリーディスプレイへのIECの主接地端子の保護接地抵抗 保護接地抵抗: ≤300 mΩ 値		N.A.			○	○	●
5	ワークステーションのモニターへのIECの主接地端子の保護接地抵抗 保護接地抵抗: ≤300 mΩ 値		N.A.			○	○	●
5	存在する場合：セカンドワークステーションのモニターへのIECの主接地端子の保護接地抵抗 保護接地抵抗: ≤300 mΩ 値		N.A.			○	○	●
3.7.2 漏れ電流の測定に使用した機器の記録								
-	漏れ電流の測定に使用したマルチメーターのマテリアル・シリアル番号を入力 パーツ番号		N.A.			○	○	●
	シリアル番号		N.A.					
-	漏れ電流の測定に使用した漏れ電流測定装置のマテリアル番号（IEC62353またはIEC60601-1（MD）準拠）を入力		N.A.			○	○	●

3.7.3 漏れ電流測定結果のレポート作成

5	患者テーブルトップからシステムPEへの漏れ電流 漏れ電流: ≤80 μA [DC] 値 N.A.	☐	☐	☒
5	ガントリーディスプレイからシステムPEへの漏れ電流 漏れ電流: ≤80 μA [AC] 値 N.A.	☐	☐	☒
5	ガントリーディスプレイからシステムPEへの漏れ電流 漏れ電流: ≤80 μA [DC] 値 N.A.	☐	☐	☒
5	ECGリードからシステムPEへの漏れ電流 漏れ電流: ≤5000 μA [AC] 値 N.A.	☐	☐	☒
5	ECGリードからシステムPEへの漏れ電流 漏れ電流: ≤5000 μA [DC] 値 N.A.	☐	☐	☒
5	ECGリードから患者テーブルトップへの漏れ電流 漏れ電流: ≤5000 μA [AC] 値 N.A.	☐	☐	☒
5	ECGリードから患者テーブルトップへの漏れ電流 漏れ電流: ≤5000 μA [DC] 値 N.A.	☐	☐	☒

3.8 ガントリーカバーの再取り付け

5	カバーと保護導体ケーブルを取り付け	☒	☐	☐
---	-------------------	----------------------------------	-----------------------	-----------------------

4 18か月ごとのシステムPMの作業：パート2（カバーを取り付けた状態）

4.1 システム設置/運用開始時のキャリブレーション結果と設定のアーカイブ

-	システム設置/運用開始時のキャリブレーション結果と設定をバックアップ	☒	☐	☐
-	設置/運用開始時のバックアップをアーカイブ	☒	☐	☐
-	サービスライセンスファイルをお客様側に残していない	☒	☐	☐

4.3 ガントリーの点検

-	SPECTガントリーのクロスビームと床との間の最小距離 距離は: ≥ 35.1 mm (1.38インチ) 値 40	☒	☐	☐
5	ライトレールのタッチパッドを点検	☒	☐	☐
5	検出器1の先読みセンサを点検	☒	☐	☐

4.4 FPHSの点検

- S フロントPHSに安全性にかかわる損傷がない
- PHSフロアプレートのネジが締め付けられている
- S パレット下側のローラーを点検
- S ピボットの転がり力とその機能を点検
- S ICCのタッチパッドを点検
- S フットペダルのスイッチを点検

☒	☐	☐
☒	☐	☐
☒	☐	☐
☒	☐	☐
☒	☐	☐
☒	☐	☐

4.5 RPHSの点検

- S RPHSに安全性にかかわる損傷がない

☒	☐	☐
----------------------------------	-----------------------	-----------------------

4.6 UPSの点検（存在する場合）

- UPSを点検

☒	☐	☐
----------------------------------	-----------------------	-----------------------

4.7 付属品と取付器具の点検

- S 患者位置決め用付属品を点検し、目に見える損傷がないことを確認

☒	☐	☐
----------------------------------	-----------------------	-----------------------

4.8 特殊パレットの点検

- Q マンモグラフィパレットに明らかな変形がない
- Q 小児パレットに明らかな変形がない
- Q 放射線治療用パレットに明らかな変形がない
- Q 選択した特殊パレットが正しく取り付けられている

☐	☐	☒
☐	☐	☒
☐	☐	☒
☐	☐	☒

4.9 ACC/ICC/CCCの点検

- ACCの点検を実施
- ICCの点検を実施
- CCCの点検を実施

☒	☐	☐
☒	☐	☒
☒	☐	☐

4.10 SPECT検出器のテスト

- Q QCの結果が最新で仕様範囲内
- Q 固有均一性が仕様範囲内

☒	☐	☐
☒	☐	☐

5 18か月ごとのシステムPMの作業：パート3（ガントリーを分離した状態）

5.4 回転リミットセンサー

- S 回転リミットセンサーを点検

☒	☐	☐
----------------------------------	-----------------------	-----------------------

5.5 耐荷重ボルトの点検（ガントリー分割）

S 補強リブを点検

●

○

○

S リングとベースフレームの接続部を点検

●

○

○

S モーターの接続部を点検

●

○

○

S モーターマウントの接続部を点検

●

○

○

5.6 SPECTガントリーの回転リングの注油

S ガントリーの回転動作を点検

●

○

○

- 回転リングへの注油

●

○

○

5.8 電気的安全性の点検

5.8.1 保護接地抵抗測定結果のレポート作成

S SPECTガントリーのクリーンボックスへのIECの主接地端子の保護接地抵抗

○

○

●

保護接地抵抗: $\leq 100 \text{ m}\Omega$

値

N.A.

S SPECTガントリーのフレームへのIECの主接地端子の保護接地抵抗

○

○

●

保護接地抵抗: $\leq 300 \text{ m}\Omega$

値

N.A.

S CT PDBへのIECの主接地端子の保護接地抵抗

○

○

●

保護接地抵抗: $\leq 100 \text{ m}\Omega$

値

N.A.

S CTガントリーフレームへのIECの主接地端子の保護接地抵抗

○

○

●

保護接地抵抗: $\leq 300 \text{ m}\Omega$

値

N.A.

S フロントPHS（上部接地点）へのIECの主接地端子の保護接地抵抗

○

○

●

保護接地抵抗: $\leq 300 \text{ m}\Omega$

値

N.A.

S フロントPHS（下部接地点）へのIECの主接地端子の保護接地抵抗

○

○

●

保護接地抵抗: $\leq 300 \text{ m}\Omega$

値

N.A.

S RPHS接地点へのIECの主接地端子の保護接地抵抗

○

○

●

保護接地抵抗: $\leq 300 \text{ m}\Omega$

値

N.A.

S ガントリーディスプレイへのIECの主接地端子の保護接地抵抗

○

○

●

保護接地抵抗: $\leq 300 \text{ m}\Omega$

値

N.A.

S ワークステーションのモニターへのIECの主接地端子の保護接地抵抗

○

○

●

保護接地抵抗: $\leq 300 \text{ m}\Omega$

値

N.A.

- 5 存在する場合：セカンドワークステーションのモニターへのIECの主接地端子の保護接地抵抗
保護接地抵抗: $\leq 300 \text{ m}\Omega$
値 N.A.

5.8.2 漏れ電流の測定に使用した機器の記録

- 漏れ電流の測定に使用したマルチメーターのマテリアル・シリアル番号を入力
パーツ番号 N.A.
シリアル番号 N.A.
- 漏れ電流の測定に使用した漏れ電流測定装置のマテリアル番号（IEC62353またはIEC60601-1（MD）準拠）を入力
N.A.

5.8.3 漏れ電流測定結果のレポート作成

- 5 患者テーブルトップからシステムPEへの漏れ電流
漏れ電流: $\leq 80 \text{ }\mu\text{A}$ [DC]
値 N.A.
- 5 ガントリーディスプレイからシステムPEへの漏れ電流
漏れ電流: $\leq 80 \text{ }\mu\text{A}$ [AC]
値 N.A.
- 5 ガントリーディスプレイからシステムPEへの漏れ電流
漏れ電流: $\leq 80 \text{ }\mu\text{A}$ [DC]
値 N.A.
- 5 ECGリードからシステムPEへの漏れ電流
漏れ電流: $\leq 5000 \text{ }\mu\text{A}$ [AC]
値 N.A.
- 5 ECGリードからシステムPEへの漏れ電流
漏れ電流: $\leq 5000 \text{ }\mu\text{A}$ [DC]
値 N.A.
- 5 ECGリードから患者テーブルトップへの漏れ電流
漏れ電流: $\leq 5000 \text{ }\mu\text{A}$ [AC]
値 N.A.
- 5 ECGリードから患者テーブルトップへの漏れ電流
漏れ電流: $\leq 5000 \text{ }\mu\text{A}$ [DC]
値 N.A.

5.9 システムのカバーの再取り付け

- 5 カバーと保護導体ケーブルを取り付け

5.10 NM-CT_FOVキャリブレーションの実施

- NM-CT_FOVキャリブレーションを実施

6 36か月ごとのCT PMの作業：パート4

6.1 システム設置/運用開始時のキャリブレーション結果と設定のアーカイブ

- システム設置/運用開始時のキャリブレーション結果と設定をバックアップ ☐ ☐ ☒
- 設置/運用開始時のバックアップをアーカイブ ☐ ☐ ☒
- サービスライセンスファイルをお客様側に残していない ☐ ☐ ☒

6.5 回転駆動部のベルト張力の点検

- 回転駆動ベルトの張力を点検 ☐ ☐ ☒

6.6 ガントリー：ブラシブロックの交換

- ブラシブロックを交換（36か月ごと） ☐ ☐ ☒

6.7 メインベアリングの注油

- メインベアリングへの注油 ☐ ☐ ☒

6.8 環境モニタリングボードのバッテリーの交換

- 環境モニタリングボードのバッテリーを交換 ☐ ☐ ☒

6.9 冷却ファンの点検

- 冷却ファンを点検 ☐ ☐ ☒

7 12か月ごとの安全点検とシステムチェック：パートA

7.1 システム設置/運用開始時のキャリブレーション結果と設定のアーカイブ

- システム設置/運用開始時のキャリブレーション結果と設定をバックアップ ☒ ☐ ☐
- 設置/運用開始時のバックアップをアーカイブ ☒ ☐ ☐
- サービスライセンスファイルをお客様側に残していない ☒ ☐ ☐

7.4 PDBのファンの動作の点検

- PDBのファンの動作を点検 ☒ ☐ ☐

7.7 サージ防護デバイス（PDS）の点検

- サージ防護デバイスを点検 ☒ ☐ ☐

7.8 ICS/IRSの吸気口の清掃

- ICS/IRSの吸気口を清掃 ☒ ☐ ☐

7.9 PDBのファンの清掃

- PDBのファンを清掃 ☒ ☐ ☐

7.10 PDSの保護機能の点検

S RCMAの機能を点検



S F2の機能を点検



S F12の機能を点検



7.12 電気的安全性の点検

7.12.2 保護接地抵抗の点検

7.12.2.4 保護接地抵抗測定結果のレポート作成

S SPECTガントリーのクリーンボックスへのIECの主接地端子の保護接地抵抗

保護接地抵抗: $\leq 100 \text{ m}\Omega$

値

23

S SPECTガントリーのフレームへのIECの主接地端子の保護接地抵抗

保護接地抵抗: $\leq 300 \text{ m}\Omega$

値

21

S CT PDBへのIECの主接地端子の保護接地抵抗

保護接地抵抗: $\leq 100 \text{ m}\Omega$

値

22

S CTガントリーフレームへのIECの主接地端子の保護接地抵抗

保護接地抵抗: $\leq 300 \text{ m}\Omega$

値

19

S フロントPHS（上部接地点）へのIECの主接地端子の保護接地抵抗

保護接地抵抗: $\leq 300 \text{ m}\Omega$

値

52

S フロントPHS（下部接地点）へのIECの主接地端子の保護接地抵抗

保護接地抵抗: $\leq 300 \text{ m}\Omega$

値

31

S RPHS接地点へのIECの主接地端子の保護接地抵抗

保護接地抵抗: $\leq 300 \text{ m}\Omega$

値

36

S ガントリーディスプレイへのIECの主接地端子の保護接地抵抗

保護接地抵抗: $\leq 300 \text{ m}\Omega$

値

58

S ワークステーションのモニターへのIECの主接地端子の保護接地抵抗

保護接地抵抗: $\leq 300 \text{ m}\Omega$

値

84

S 存在する場合：セカンドワークステーションのモニターへのIECの主接地端子の保護接地抵抗

保護接地抵抗: $\leq 300 \text{ m}\Omega$

値

89

7.12.3 漏れ電流試験

7.12.3.1 漏れ電流の点検の前提条件

システムのカバーがすべて取り付けられている

●	○	○
---	---	---

システムが機能している状態

●	○	○
---	---	---

7.12.3.3 漏れ電流の測定に使用した機器の記録

- 漏れ電流の測定に使用したマルチメーターのマテリアル・シリアル番号を入力

パーツ番号 5550000009468

シリアル番号 53390018

●	○	○
---	---	---

- 漏れ電流の測定に使用した漏れ電流測定装置のマテリアル番号（IEC62353または IEC60601-1（MD）準拠）を入力

10267590

●	○	○
---	---	---

7.12.4 漏れ電流測定結果のレポート作成

- S 患者テーブルトップからシステムPEへの漏れ電流

漏れ電流: $\leq 80 \mu\text{A}$ [DC]

値 0.1

●	○	○
---	---	---

- S ガントリーディスプレイからシステムPEへの漏れ電流

漏れ電流: $\leq 80 \mu\text{A}$ [AC]

値 0.4

●	○	○
---	---	---

- S ガントリーディスプレイからシステムPEへの漏れ電流

漏れ電流: $\leq 80 \mu\text{A}$ [DC]

値 0.1

●	○	○
---	---	---

- S ECGリードからシステムPEへの漏れ電流

漏れ電流: $\leq 5000 \mu\text{A}$ [AC]

値 0.1

●	○	○
---	---	---

- S ECGリードからシステムPEへの漏れ電流

漏れ電流: $\leq 5000 \mu\text{A}$ [DC]

値 0.1

●	○	○
---	---	---

- S ECGリードから患者テーブルトップへの漏れ電流

漏れ電流: $\leq 5000 \mu\text{A}$ [AC]

値 0.1

●	○	○
---	---	---

- S ECGリードから患者テーブルトップへの漏れ電流

漏れ電流: $\leq 5000 \mu\text{A}$ [DC]

値 0.1

●	○	○
---	---	---

7.15 CTのチェックアップと不変性試験

7.15.1 CTのチェックアップ

- CTのチェックアップを完了

●	○	○
---	---	---

7.15.2 CTの不変性試験

- CTの不変性試験を完了

●	○	○
---	---	---

7.16 システムの清掃 / システム状態の確認

- S 操作室のコンポーネントとシステムを清掃
- Q お客様に返却する前にシステムの状態を確認

7.18 12か月ごとの安全点検とシステムチェック：パートA - 追加レポート作成セクション

- PDBのファンの動作を点検
- S サージ防護デバイスを点検
- ICS/IRSの吸気口を清掃
- PDBのファンを清掃
- S RCMAの機能を点検
- S F2の機能を点検
- S F12の機能を点検

8 12か月ごとの安全点検とシステムチェック：パートB

8.2 IECの点検

- S IECのパネルインジケータのライトの点検

8.3 システムステータスの評価

- システムステータスを確認

8.4 SPECTガントリーのブレーキテスト

- S トラニオンブレーキを点検
- S 回転ブレーキを点検
- S FPHSの上下動ブレーキを点検

8.5 目視点検

- S コンポーネントハウジングを点検
- S 家具/壁の位置とガントリーの最低距離が確保されている
- S ケーブルとコネクタを点検
- S 警告ラベルを点検

8.6 CTのエアフィルターの交換

- エアフィルターを交換

8.7 機能テスト

- S ガントリーディスプレイの緊急停止を点検
- S 左右の緊急停止を点検

	実施/ 適合	要対応	該当無/ 適用外
S コントロールボックスの緊急停止を点検	●	○	○
S X線照射停止を確認	●	○	○
S X線照射インジケータを点検し、摩耗や損傷がないことを確認	●	○	○
S ドアコンタクトスイッチを点検	○	○	●
8.8 SLDのアクメスクリューの点検			
S SLD1とSLD2のアクメスクリューを点検	●	○	○
8.9 システムの清掃 / システム状態の確認			
S 操作室のコンポーネントとシステムを清掃	●	○	○
Q お客様に返却する前にシステムの状態を確認	●	○	○
8.11 12か月ごとの安全点検とシステムチェック：パートB・追加レポート作成セッション			
S IECのパネルインジケータのライトの点検	●	○	○
S トラニオンブレーキを点検	●	○	○
S 回転ブレーキを点検	●	○	○
S FPHSの上下動ブレーキを点検	●	○	○
S コンポーネントハウジングを点検	●	○	○
S 家具/壁の位置とガントリーの最低距離が確保されている	●	○	○
S ケーブルとコネクタを点検	●	○	○
S 警告ラベルを点検	●	○	○
- エアフィルターを交換	●	○	○
S ガントリーディスプレイの緊急停止を点検	●	○	○
S 左右の緊急停止を点検	●	○	○
S コントロールボックスの緊急停止を点検	●	○	○
S X線照射停止を確認	●	○	○
S X線照射インジケータを点検し、摩耗や損傷がないことを確認	●	○	○
S ドアコンタクトスイッチを点検	○	○	●
S SLD1とSLD2のアクメスクリューを点検	●	○	○
S 操作室のコンポーネントとシステムを清掃	●	○	○
Q お客様に返却する前にシステムの状態を確認	●	○	○